



Red Hat Satellite 6.15

リリースノート

追加された機能、非推奨となった機能、削除された機能、既知の問題、および主な参考資料について

Red Hat Satellite 6.15 リリースノート

追加された機能、非推奨となった機能、削除された機能、既知の問題、および主な参考資料について

Red Hat Satellite Documentation Team
satellite-doc-list@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このドキュメントでは、Red Hat Satellite の製品情報、新機能の概要、および既知の問題を説明します。

目次

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	3
第1章 変更の概要	4
1.1. SATELLITE-INSTALLER パラメーターの変更	5
第2章 新機能	7
第3章 バグ修正	12
第4章 テクノロジープレビュー	14
第5章 非推奨になった機能	15
第6章 削除された機能	17
第7章 既知の問題	20
第8章 主な参考資料	22
8.1. RED HAT SATELLITE とは	22
8.2. サポート対象のアーキテクチャー	22
8.3. コンテンツ配信ネットワークのリポジトリとツール	22
8.4. デプロイメントワークフローと参照製品ドキュメント	25
8.5. 製品のライフサイクル	25
8.6. コンポーネントのバージョン	26
付録A コンポーネント別のチケットリスト	27

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。また、改善点があればお知らせください。

フィードバックを提供するには、Red Hat Jira の **Create Issue** フォームを使用します。Jira の問題は Red Hat Satellite Jira プロジェクトに作成され、その進捗状況を追跡できます。

前提条件

- [Red Hat アカウント](#) が登録されている。

手順

1. **Create Issue** にアクセスします。Jira でログインエラーが表示された場合は、フォームにリダイレクトされた後、ログインして続行します。
2. **Summary** フィールドと **Description** フィールドに入力します。**Description** フィールドに、ドキュメントの URL、章またはセクション番号、および問題の詳しい説明を入力します。フォーム内の他のフィールドは変更しないでください。
3. **Create** をクリックします。

第1章 変更の概要

Red Hat Satellite の 6.15 リリースには、以下の変更が含まれています。

katello-agent サブシステムを削除しました

- katello-agent、qpid メッセージングシステム、および関連するコンテンツ設定が Satellite から削除されました。
- アップグレードの前に、ホストを katello-agent からリモート実行に移行する必要があります。リモートパッケージアクションを実行する方法が、リモート実行だけになりました。
- Red Hat では、アップグレード前に Satellite Server および Capsule Server で katello-agent を無効にすることを推奨しています。
- 必要に応じて、ホストから katello-agent パッケージを削除できます。Red Hat では、このパッケージを削除して、リモート実行を使用してリモートパッケージアクションを実行できることを確認することを推奨しています。
- [katello-agent](#) も併せて参照してください。

セキュリティ強化のサポート

- Satellite Server および Capsule Server で **fapolicyd** を有効にすることができます。詳細は、[Satellite と Capsule で fapolicyd が利用可能になりました](#) を参照してください。

ユーザーエクスペリエンスの向上

- Satellite Web UI のメインの Satellite メニューで、ホバーではなくクリックで項目が表示されるようになりました。メニューは3つのレベルがあり、検索可能です。詳細は、[垂直ナビゲーションの変更](#) を参照してください。
- Satellite バージョンのサポート終了日が近づいている場合、またはサポート終了日を過ぎている場合、Satellite Web UI にバナーが表示されます。詳細は、[Web UI の Satellite EOL 日](#) を参照してください。
- 失敗したタスクに関する新しいメール通知をユーザーがサブスクライブできます。詳細は、[特定のバックグラウンド動作が失敗した後、Satellite はメール通知を送信します。](#) を参照してください。
- Satellite は WebUI キャッシュとして Redis を使用できます。Redis は大規模なセットアップでより大きな負荷を処理できます。詳細は、[Redis キャッシュ](#) を参照してください。
- Web UI でのホスト登録時に、Satellite がアクティベーションキーを自動選択します。詳細は、[Satellite はホストの登録時にアクティベーションキーを自動選択します。](#) を参照してください。

ドキュメントの改善

- Performance Co-Pilot を使用した [Satellite のパフォーマンスの監視](#) ガイドの更新バージョンが再導入されました。
- オンラインの Red Hat Satellite とオフラインの Red Hat Satellite ごとに、別々のアップグレード手順が提供されています。
 - [オンラインの Red Hat Satellite の 6.15 へのアップグレード](#)

○ オフラインの Red Hat Satellite の 6.15 へのアップグレード

Red Hat Satellite 6.15 の詳細な変更点については、次の章を参照してください。

1.1. SATELLITE-INSTALLER パラメーターの変更

このリリースでは、次のパラメーターが削除されました。

- **--foreman-proxy-content-enable-katello-agent**: Capsule Server で Katello エージェントを有効にします。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-agent-addr**: goferd エージェントのリスナーアドレス。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-agent-port**: goferd エージェントのリスナーポート。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-broker-addr**: 接続する qpidd ブローカーのアドレス。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-broker-port**: 接続する qpidd ブローカーのポート。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-hub-addr**: ルーターハブをディスパッチするためのアドレス。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-hub-port**: ルーターハブをディスパッチするためのポート。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-logging**: ファイルにログを記録するか、syslog にログを記録するかを指定します。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-logging-level**: ディスパッチルーターのロギングレベル (例: info+ または debug+)。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-logging-path**: ファイルロギングを使用する場合のディスパッチルーターログのディレクトリー。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-ssl-ciphers**: ディスパッチルーターをサポートする SSL 暗号。
- **--foreman-proxy-content-qpidd-router-ssl-protocols**: ディスパッチルーターをサポートするプロトコル (例: TLSv1.2)。
- **--katello-qpidd-hostname**: qpidd に接続するためのホスト名を設定します。
- **--katello-qpidd-interface**: ループバック以外の qpidd のネットワークインターフェイスを指定します。
- **--katello-qpidd-wcache-page-size**: qpidd が Katello のキャッシュ内のページサイズを設定します。

このリリースでは次のパラメーターが追加されました。

- **--[no-]enable-apache-mod-status**: 'apache_mod_status' puppet モジュールを有効にします。
- **--apache-mod-status-extended-status**: ExtendedStatus ディレクティブを使用して、各リクエストの拡張ステータス情報を追跡するかどうかを決定します。
- **--apache-mod-status-requires**: Web サーバーの負荷と現在の HTTP 接続を監視します。

- **--apache-mod-status-status-path**: サーバーステータスにアクセスするための URL を定義する Location ディレクティブに割り当てられたパス。
- **--foreman-plugin-remote-execution-Cockpit-ensure**: Foreman Remote Execution プラグインが Cockpit と統合されていることを確認します。
- **--foreman-provisioning-ct-location**: CoreOS テンプレートをトランスパイルするときに呼び出すバイナリーの場所。
- **--foreman-provisioning-fcct-location**: Fedora CoreOS テンプレートをトランスパイルするときに呼び出すバイナリーの場所。
- **--foreman-proxy-content-pulpcore-import-workers-percent**: pulpcore が一度にインポートタスクに使用可能なワーカーの割合。
- **--foreman-proxy-content-reverse-proxy-backend-protocol**: リバースプロキシが Foreman に接続するために使用するプロトコルを設定します。
- **--foreman-proxy-manage-service**: Foreman Proxy サービスの管理を制御します。
- **--katello-candlepin-loggers**: Candlepin ロガーを設定します。
- **--puppet-certificate-revocation**: 失効した証明書のリストを管理します。
- **--puppet-server-git-repo-umask**: git 操作中に使用される umask。
- **--puppet-server-jolokia-metrics-allowlist**: Puppet Server が公開する Jolokia エンドポイントの許可リストを設定します。

このリリースでは、次のパラメーターが置き換えられました。

- **--puppet-server-admin-api-whitelist** が **--puppet-server-admin-api-allowlist** に置き換えられました。このパラメーターは、puppet-admin-api エンドポイントをクエリーできるクライアントの許可リストを設定します。
- **--puppet-server-ca-client-whitelist** が **--puppet-server-ca-client-allowlist** に置き換えられました。このパラメーターは、クライアント証明書の許可リストを設定します。
- **--puppet-server-git-repo-mode** が **--puppet-server-git-repo-hook-mode** (Git リポジトリフックモード) に置き換えられました。

第2章 新機能

ここでは、Red Hat Satellite 6.15 で導入された新機能と主な機能拡張を説明します。

hammer を使用してすべての ACS を一括更新するコマンド

既存の API エンドポイントと競合する可能性があるため、正しいコマンドは次のようになります。

```
$ hammer alternate-content-source bulk refresh-all
```

Jira:SAT-23132

Append domain names to the host 設定の動作が変更されました

Append domain names to the host 設定の動作が変更され、ホストが完全な名前でデータベースに保存され、値が表示されるようになりました。

Jira:SAT-24730

ホスト詳細ページに新しいアクションが追加されました

ホスト詳細ページの縦の省略記号が更新されました。以下のアクションを行うと、リモート実行によりパッケージプロファイルがホストに強制的にアップロードされます。これにより、適用可能性の計算が最新のものになります。

- ページの右上にある **メイン** の縦の省略記号に、適用可能性の更新が追加されました。
- **Content > Packages** テーブルの上にある縦の省略記号に、パッケージの適用可能性の更新が追加されました。
- エラータの適用可能性の更新が、**Content > Errata** タブにある縦の省略記号メニューの **Recalculate** アクションの代わりに追加されました。

Jira:SAT-22617

プロビジョニングテンプレートがホストの登録に Global Registration の方式を使用するようになりました

以前は、プロビジョニングテンプレートがプロビジョニング中のホストの登録に Katello CA Consumer を使用していました。これは非推奨であり、新しい RHEL システムと互換性がありません。このリリースでは、プロビジョニングテンプレートに共通の **subscription_manager_setup** スニペットが含まれているため、プロビジョニングテンプレートは Global Registration テンプレートと同じ方法を使用してホストを登録します。

[Bugzilla:2153548](#)

Capsule パッケージの数の更新が利用可能になりました

Capsule で同期済みのコンテンツが有効になっている場合、Capsule に関連付けられた環境で使用可能なコンテンツの数を更新できます。このとき、Capsule で使用可能な環境内のコンテンツビューが表示されます。その後、コンテンツビューを展開して、そのコンテンツビューバージョンに関連付けられているリポジトリを表示できます。

Jira:SAT-17368

SCA 組織のホスト用の新しいレポートテンプレート

Host - Installed Products

このテンプレートは、Simple Content Access (SCA) 組織のホストに使用します。インストールされている製品の情報と、**Subscription - Entitlement Report**に含まれる他のメトリクス (サブスクリプションに関する情報を除く) とを含むレポートが生成されます。

Subscription - Entitlement Report

このテンプレートは、SCA 組織に属していないホストに使用します。有効期限を含む、サブスクリプションエンタitlementに関する情報のレポートが生成されます。SCA を使用しない組織内のホストに関する情報のみが出力されます。

Jira:SAT-20479

RHEL のサポート終了が Satellite で確認可能になりました

Satellite は、Red Hat Enterprise Linux ホストの将来のサポート終了 (EOS) イベントに関する情報を表示するメカニズムを複数備えています。

- 通知バナー
- Hosts インデックスページの列
- Search フィールド
 1. Satellite Web UI で、**Hosts > All Hosts** に移動します。
 2. **Manage columns** をクリックします。
 3. **Content** 列を選択して展開します。
 4. **RHEL Lifecycle status** を選択します。
 5. **Save** をクリックすると、Red Hat Enterprise Linux ライフサイクルのステータスを表示する新しい列が生成されます。

Search フィールドを使用して、**rhel_lifecycle_status** によりホストを検索できます。ステータスの値には次のものがあります。

- **full_support**
- **maintenance_support**
- **approaching_end_of_maintenance**
- **extended_support**
- **approaching_end_of_support**
- **support_ended**

RHEL ライフサイクルのステータスは、ホストの詳細ページの **Host status** カードでも確認できます。

Jira:SAT-20480

Satellite と Capsule で **fapolicyd** が利用可能になりました

Satellite Server および Capsule Server に **fapolicyd** をインストールして有効にできるようになりました。**fapolicyd** ソフトウェアフレームワークは、悪意のある可能性のある信頼できないアプリケーションがシステム上で実行されるのを防ぐ最も効率的な方法の1つです。

Jira:SAT-20753

垂直ナビゲーションの変更

このリリースでは、次の垂直ナビゲーションの変更が加えられています。

- 垂直ナビゲーションの上部にある新しい検索バーにより、メニュー項目をすばやく見つけることができます。検索バーをクリックするか、**Ctrl + Shift + F**を押すと、検索バーにフォーカスできます。
- 垂直ナビゲーションの一部のメニュー項目は、展開可能なサブメニューにグループ化されました。たとえば、**Monitor** の下の **Config Management** および **Report Templates** は **Reports** にグループ化されています。展開するにはサブメニューをクリックします。メニュー項目の順序に変更はありません。
- **Monitor** や **Reports** などのメニューおよびサブメニュー項目は、カーソルを合わせたときではなく、クリックしたときに展開されるようになりました。

Jira:SAT-20947

Web UI の Satellite EOL 日

Satellite のバージョンの EOL 日が 6 カ月以内の場合、管理者ユーザーは Satellite Web UI でライフサイクル終了 (EOL) 日を確認できるようになりました。この情報は警告バナーとして表示されます。Satellite のバージョンが EOL 日を過ぎると、警告バナーがエラーバナーに変わります。バナーを閉じると、1 カ月後または EOL 日に再び表示されます。

Jira:SAT-20990

Satellite はホストの登録時にアクティベーションキーを自動選択します。

Satellite Web UI で **Hosts > Register Host** を使用してホストを登録し、登録フォームで選択した組織とロケーションで使用できるアクティベーションキーが1つだけの場合、Satellite はアクティベーションキーを自動的に選択します。

[Bugzilla:1994654](#)

特定のバックグラウンド動作が失敗した後、Satellite はメール通知を送信します。

以前は、リポジトリ同期などのバックグラウンド動作が失敗した場合、ユーザーは Satellite Web UI にログインして失敗を確認する必要がありました。この更新により、コンテンツビューのプロモーションの失敗、コンテンツビューの公開の失敗、Capsule 同期の失敗、リポジトリ同期の失敗といったイベントに関するメール通知を設定できるようになりました。

通知の受信を開始するには、Satellite Web UI にログインし、**Administer > Users** に移動します。必要なユーザーを選択し、**Email Preferences** タブに切り替えて、必要な通知を指定します。**Email Preferences** タブの **Mail Enabled** チェックボックスが選択されていることを確認してください。アカウントが無効になっているユーザーは通知メールを受信しないことに注意してください。

Jira:SAT-20393

Satellite インストーラーが、最適なロギングレイアウトを自動的に決定するようになりました。

以前は、**--foreman-logging-layout** オプションを **satellite-installer** に渡して、Satellite ログのレイアウトを手動で設定する必要がありました。このリリースでは、レイアウトタイプを手動で指定しない場合、**satellite-installer** が最適なレイアウトタイプを自動的に選択します。ファイルベースのロギングの場合、デフォルトでは **multiline_request_pattern** レイアウトが使用されます。journald へのロギングの場合、デフォルトでは **pattern** レイアウトが使用されます。必要なロギングレイアウトを手動で指定するには、**--foreman-logging-layout** オプションを **satellite-installer** に渡します。

Jira:SAT-20206

Redis キャッシュ

Satellite に、**redis** を Satellite WebUI のキャッシュとして設定する機能が追加されました。Satellite Server に多数のホストが登録されている場合、または **extra-large** チューニングプロファイルを使用していて問題が発生している場合は、**redis** キャッシュを使用します。**Redis** キャッシュを使用するには、以下を実行します。

```
# satellite-installer --foreman-rails-cache-store type:redis
```

ファイルベースのキャッシュに戻すには、以下を実行します。

```
# satellite-installer --foreman-rails-cache-store type:file
```

Jira:SAT-20910

Satellite 設定の `append_domain_name_for_hosts` が `display_fqdn_for_hosts` に置き換えられました

以前は、ドメイン名が付加されたホスト名を Satellite がデータベースに保存するかどうかを設定できました。この更新により、データベース内のホストの名前プロパティに常に完全修飾ドメイン名 (FQDN) が含まれるようになりました。

その結果、Satellite で次の設定を利用できなくなりました。

- Satellite Web UI の **Append domain names to the host**
- Hammer と API の **append_domain_name_for_hosts**

上記の設定は以下の設定に置き換えられました。新しい設定は、ホスト名の表示方法のみを制御します。

- Satellite Web UI の **Display FQDN for hosts**
- Hammer と API の **display_fqdn_for_hosts**

Jira:SAT-19793

権限

次の権限が追加されました。

- `create_lookup_values`
- `destroy_lookup_values`
- `edit_lookup_values`
- `view_lookup_values`

これらの権限は、Ansible 変数のオーバーライドに関する問題を解決するために作成されたものであり、関連するロールに自動的に割り当てられます。詳細は、[管理者以外のユーザーが Ansible 変数をオーバーライドできるようになりました](#) を参照してください。

Jira:SAT-18126

新しい Hammer サブコマンドとオプション

新しいサブコマンド

- **hammer alternate-content-source bulk**
- **hammer capsule content reclaim-space**
- **hammer capsule content update-counts**
- **hammer proxy content reclaim-space**
- **hammer proxy content update-counts**

新しいオプション

- **file-id** と **nondefault** が **hammer content-view version list** に追加されました。
- **lifecycle-environment**、**environment**、および **environment-id** が **hammer erratum list** に追加されました。
- **delete-empty-repo-filters** が **hammer repository delete** に追加されました。

Jira:SAT-24698

新しい API エンドポイント

次の API エンドポイントが追加されました。

- **/katello/api/alternate_content_sources/bulk/refresh_all**
- **/katello/api/capsules/:id/content/counts**
- **/katello/api/capsules/:id/content/update_counts**
- **/katello/api/capsules/:id/content/reclaim_space**
- **/api/v2/hosts/bulk**

Jira:SAT-24552

第3章 バグ修正

ここでは、Red Hat Satellite 6.15 で修正された、ユーザーに重大な影響を与えるバグを説明します。

Concurrency level 設定

以前は、リモート実行ジョブのスケジューリングで使用される **Concurrency level** の設定が、常に正しく機能するとは限りませんでした。そのため、サービスが再起動するまでジョブがフリーズする可能性があります。このリリースでは、この問題は修正され、**Concurrency level** の設定が意図したとおりに機能するようになりました。

Jira:SAT-19794

ホストファクトを更新しても **host_updated** イベントがトリガーされなくなりました

以前は、ホストファクトを更新すると、**host_updated** イベントが複数回トリガーされていました。これにより、登録された Webhook が、ホストファクトの1回の更新で複数回実行されていました。このリリースでは、ホストファクトを更新しても **host_updated** イベントはトリガーされません。ホストファクトが更新されたときに通知を受け取りたい場合は、新しい **host_facts_updated** イベントに Webhook を登録します。この新しいイベントは、ホストファクトの更新ごとに1回のみ Webhook をトリガーします。ユーザーが手動でホストを更新した場合は、**host_updated** イベントが引き続きトリガーされます。

Jira:SAT-20746

ホストを削除した時に Webhook から詳細情報にアクセスできるようになりました

以前は、ホストを削除した場合、Webhook テンプレートではホストに関する基本情報しか使用できませんでした。このリリースでは、ホストを削除すると、Webhook テンプレートがホストの詳細情報にアクセスできます。

Jira:SAT-20745

登録終了コードに登録の失敗が反映されるようになりました

以前は、ホストの登録が失敗した場合でも、登録コマンドが終了コード 0 を返していました。このリリースでは、登録コマンドは成功した場合にのみ 0 を返し、それ以外の場合は 0 以外のコードを返しました。

[Bugzilla:2155444](#)

管理者以外のユーザーが Ansible 変数をオーバーライドできるようになりました

以前は、システム管理者以外の Satellite ユーザーは、Ansible Roles Manager ユーザーロールが割り当てられていても、Ansible 変数をオーバーライドできませんでした。このリリースでは、権限が修正され、管理者以外のユーザーが Ansible 変数をオーバーライドできるようになりました。

[Bugzilla:2181595](#)

JWT の有効期限を無制限にするには、0 を使用してホスト登録コマンドを生成します

以前は、無制限の認証トークンを使用してホスト登録コマンドを生成する場合に、Hammer と API が受け入れる値が明確ではありませんでした。受け入れられる値は次のとおりです。

- 0 は無制限を意味します。
- 0 から 999999 までの値は有効期限 (時間単位) です。デフォルトは 4 時間です。
- その他の値は受け入れられません。

このリリースでは、Hammer ヘルプと API リファレンスに無制限の値が明記されました。

[Bugzilla:2180568](#)

第4章 テクノロジープレビュー

ここでは、Red Hat Satellite 6.15 で利用可能なすべてのテクノロジープレビュー機能のリストを示します。

テクノロジープレビューに対する Red Hat のサポート範囲の詳細は、[テクノロジープレビューのサポート範囲](#) を参照してください。

OpenShift 仮想化プラグイン

OpenShift Virtualization コンピュートリソースをテクノロジープレビューとして使用して、仮想マシンをプロビジョニングできます。

Jira:SAT-18663

OVAL / CVE レポート作成のサポート

Satellite に、Red Hat が提供する OVAL 標準データフィードを使用して、システムの脆弱性をスキャンする機能が追加されました。

foreman_openscap に、OVAL oscap スキャンをトリガーするために使用する OVAL コンテンツをアップロードするための API が含まれています。結果は CVE に対して解析され、Satellite に送信されます。その後、Satellite が管理対象ホストとそれに影響を与える CVE のレポートを生成します。

Jira:SAT-21011

カーネル実行 (kexec) テンプレート

PXE なしの起動方法が含まれるカーネル実行テンプレートです。

Jira:SAT-21012

第5章 非推奨になった機能

ここでは、Red Hat Satellite 6.15 で **非推奨** となった機能の概要を説明します。

非推奨の機能は、本製品の今後のリリースではサポートされない可能性が高く、新たに実装することは推奨されません。特定のメジャーリリースにおける非推奨機能の最新情報は、そのメジャーリリースの最新版のリリースノートを参照してください。

非推奨の機能のサポート状況は、Red Hat Satellite 6.15 では変更されません。サポート期間の詳細は、[Red Hat Enterprise Linux のライフサイクル](#) および [Red Hat Enterprise Linux アプリケーションストリームのライフサイクル](#) を参照してください。

現行および今後のリリースでは、非推奨のハードウェアコンポーネントの新規実装は推奨されません。ハードウェアドライバーの更新は、セキュリティ修正と重大な修正でのみ行われます。Red Hat では、このようなハードウェアの早期交換を推奨します。

パッケージが非推奨となり、使用の継続が推奨されない場合があります。製品からパッケージが削除されることもあります。その場合には、製品のドキュメントで、非推奨となったパッケージと同様、同一、またはより高度な機能を提供する最近のパッケージが指定され、詳しい推奨事項が記載されます。

パッケージグループアクション

Web UI のパッケージグループアクションは非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。

Jira:SAT-27432

エンタイトルメントベースのサブスクリプション管理

Satellite 6.16 以降では、Simple Content Access (SCA) が唯一のサブスクリプション管理方法になります。

エンタイトルメント

エンタイトルメントベースのサブスクリプション管理は、Satellite 6.16 で削除されます。サブスクリプションについては、管理者のエンタイトルメントエクスペリエンスを簡素化する Simple Content Access の代用が推奨されます。

Jira:SAT-20195

スナップショットベースのバックアップ

スナップショットベースのバックアップ機能は非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。

Jira:SAT-20862

非同期 SSH リモート実行モード

async-ssh リモート実行モードは非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。Capsule と管理対象ホスト間の接続が不安定な場合、Red Hat は pull モードを使用することを推奨します。pull モードの詳細は、[ホストの管理のリモート実行用のトランスポートモード](#) を参照してください。

Foreman フック

Foreman Hooks 機能は非推奨となり、Satellite 6.16 では Foreman Webhooks に置き換えられます。

Red Hat Virtualization でのプロビジョニング

Red Hat Virtualization (RHV) と Satellite の統合は非推奨となり、将来のリリースでは削除される予定です。RHV タイプの既存のコンピューティングリソースはすべて削除され、RHV に関連付けられているホストは切断されます。

Bootstrap.py

ホストを Satellite または Capsule Server に登録するために使用される **bootstrap.py** スクリプトが、グローバル登録テンプレートで作成される curl コマンドに置き換えられました。**Registration** を主なツールとして使用することを推奨します。

Jira:SAT-21137

Jira:SAT-21137

katello-ca-consumer パッケージ

katello-ca-consumer パッケージは非推奨であり、将来のリリースで削除される予定です。グローバル登録テンプレートを使用して、ホストを Red Hat Satellite に登録してください。**katello-ca-consumer** rpm は、BZ#(2153548) が解決するまでは、Satellite を使用したシステムのデプロイに引き続き使用される予定です。

katello-rhsm-consumer スクリプト

katello-rhsm-consumer スクリプトは非推奨となり、今後のリリースで削除される予定です。グローバル登録テンプレートを使用して、ホストを Red Hat Satellite に登録してください。

Jira:SAT-21372

第6章 削除された機能

ここでは、Red Hat Satellite 6.15 で **削除** された機能のリストを示します。

katello-agent

katello-agent は 6.15 で削除されました。今すぐリモート実行またはリモート実行プルモードに移行してください。移行せずに 6.15 にアップグレードすると、パッチ適用やセキュリティー更新などの重要なホストパッケージのアクションを実行できなくなります。リモート実行への移行の詳細は、[Katello エージェントからリモート実行へのホストの移行](#) を参照してください。

katello-agent の削除の一環として、次のコンテンツ設定が削除されました。

- デフォルトでリモート実行を使用
- アクションタイムアウトを受け入れる
- アクションタイムアウトの終了

注意点として、1つ前のバージョンの Capsule のサポートは **katello-agent** には適用されません。そのため、Satellite を 6.15 にアップグレードすると、6.14 を実行している Capsule 上の **katello-agent** インフラストラクチャーが動作しなくなります。Satellite をアップグレードする前に、リモート実行に完全に移行したことを確認してください。

Jira:SAT-18123

Receptor ベースの Cloud Connector が削除されました。

Receptor ベースの Cloud Connector のサーバー側サポートは console.redhat.com で削除されました。ユーザーは RHC ベースの Cloud Connector を使用することが想定されています。現在 Satellite 6.9 以前のバージョンを使用されているお客様は、RHC ベースの Cloud Connector のサポートを提供する Satellite 6.10 以降のバージョンにアップグレードされることを推奨します。

Jira:SAT-20819

監視対象のファクトのグラフの表示が削除されました。

Satellite Web UI で、**Monitor > Facts** の **Fact Values** テーブルから **View Chart** 機能と **Actions** 列が削除されました。

[Bugzilla:1972308](#)

Time span 設定

リモート実行ジョブのスケジューリングから **Time span** 設定が削除されました。Satellite でのリモートジョブの実行負荷を調整する場合は、代わりに **Concurrency level** 設定を使用します。この設定により、ジョブごとに一度に実行できるタスクの数が制限されます。

Jira:SAT-20749

API 呼び出しでホストの短縮名が使用できなくなりました

ホスト名が Satellite に **FQDN (完全修飾ドメイン名) 形式で保存** されている場合、<https://satellite.example.com/api/hosts/:hostname> などの短縮名を使用して Satellite API のホストリソースを取得できなくなりました。ホストを識別するには FQDN を使用してください。

Jira:SAT-23934

Hammer サブコマンドとオプションが削除されました

削除されたサブコマンド

- **hammer host errata apply**
- **hammer host package install**
- **hammer host package remove**
- **hammer host package upgrade**
- **hammer host package upgrade-all**
- **hammer host package-group install**
- **hammer host package-group remove**
- **hammer host-collection package install**
- **hammer host-collection package remove**
- **hammer host-collection package update**
- **hammer host-collection package-group install**
- **hammer host-collection package-group remove**
- **hammer host-collection package-group update**

削除されたオプション

- **lifecycle-environment** と **lifecycle-environment-id** が **hammer host-registration generate-command** から削除されました。
- **time-span** が **hammer job-invocation create** から削除されました。
- **docker-tags-whitelist** が **hammer repository create** から削除されました。

Jira:SAT-23753

削除された API エンドポイント

次の API エンドポイントが削除されました。

- **/katello/api/capsules/:id/reclaim_space**
- **/api/v2/hosts/:host_id/errata/apply**
- **/api/v2/hosts/:host_id/packages/install**
- **/api/v2/hosts/:host_id/packages/upgrade_all**
- **/api/v2/hosts/:host_id/packages/remove**
- **/api/v2/hosts/bulk/install_content**
- **/api/v2/hosts/bulk/update_content**

- `/api/v2/hosts/bulk/remove_content`
- `katello/api/package_group`
- `katello/api/organizations/:organization_id/products/:product_id/sync`

Jira:SAT-24557

第7章 既知の問題

ここでは、Red Hat Satellite 6.15 の既知の問題を説明します。

Capsule Server で `satellite-maintain backup` を使用すると、証明書の tar ファイルが収集されない

バックアップの作成時に、`satellite-maintain backup` コマンドで Capsule Server の証明書の tar ファイルが収集されません。その結果、アーカイブの復元が失敗します。この問題を回避するには、Satellite Server から証明書の tar ファイルを再生成します。

Jira:SAT-23881

すべてのデータが削除された無効な Puppet を再度有効化できない

Puppet プラグインを `-f, --remove-all-data` 引数で無効にした場合に、再度プラグインを有効にしようとすると、`satellite-maintain` が失敗します。

Bugzilla:2087067

外部データベースのアップグレードとインストールに `hstore` エクステンションが必要

外部データベースを使用する場合、以下を実行する必要があります。

- 6.15 にアップグレードする前に、`postgresql-contrib` パッケージをインストールし、PostgreSQL で `hstore` エクステンションを作成する必要があります。
- 新しい Satellite 6.15 をインストールする前に、`postgresql-contrib` パッケージをインストールし、`hstore` エクステンションを作成する必要があります。

エクステンションが手動で作成されていない場合、アップグレードまたはインストールでエラーが発生します。

```
permission denied to create extension "hstore"
```

このエラーが表示された場合は、続行する前に `postgresql-contrib` パッケージをインストールし、`hstore` エクステンションを作成します。

詳細は、オンラインネットワーク環境での Satellite Server のインストールの [PostgreSQL のインストール](#) および オンラインの Red Hat Satellite の 6.15 へのアップグレードの [オンラインの Satellite Server のアップグレード](#) を参照してください。

Jira:SAT-21163

Display FQDN for hosts が無効になっている場合でも、Web UI でホスト名が FQDN 形式で表示されることがある

`Display FQDN for hosts` 設定が、Satellite Web UI で一貫して適用されません。Web UI の一部のページで、`Display FQDN for hosts` 無効になっている場合でも、ホストの名前が FQDN 形式で表示されません。

Jira:SAT-22241

FIPS モードが有効になっている RHEL 9 ホストから OpenSCAP レポートをアップロードできない

Satellite に登録されている FIPS モードで実行中の RHEL 9 ホストで、OpenSCAP レポートのアップロードが次のエラーで失敗します。

Unable to load certs
Neither PUB key nor PRIV key

詳細は、関連する [ナレッジベースソリューション](#) を参照してください。

Jira:SAT-22421

第8章 主な参考資料

8.1. RED HAT SATELLITE とは

Red Hat Satellite は、物理環境、仮想環境、およびクラウド環境でのシステムのデプロイ、設定、および保守を可能にするシステム管理ソリューションです。Red Hat Satellite では、一元化された単一のツールを使用して複数の Red Hat Enterprise Linux デプロイメントのプロビジョニング、リモート管理、モニタリングが可能です。

Red Hat Satellite Server は、Red Hat カスタマーポータルおよびその他のソースからのコンテンツを同期し、詳細なライフサイクル管理、ユーザーおよびグループのロールベースのアクセス制御、サブスクリプションの統合管理、高度な GUI、CLI、または API アクセスなどの機能を提供します。

Red Hat Satellite Capsule Server は、Red Hat Satellite Server のコンテンツをミラーリングして、さまざまな地理的なロケーションにコンテンツを共有します。ホストシステムは中央の Satellite Server からではなくローカルの Capsule Server からコンテンツおよび設定をプルできます。また、Capsule Server は Puppet サーバー、DHCP、DNS、TFTP などのローカライズされたサービスも提供します。Capsule Server を使用すると、環境内でマネージドシステムの数が増えたときに Red Hat Satellite を簡単にスケールリングできます。

8.2. サポート対象のアーキテクチャー

Satellite でサポートされるアーキテクチャーの概要は、[サポート対象のクライアントアーキテクチャー](#) を参照してください。

8.3. コンテンツ配信ネットワークのリポジトリとツール

このセクションでは Red Hat Satellite のインストールに必要なリポジトリを説明します。

Red Hat Satellite は、コンテンツ配信ネットワーク (CDN) からインストールすることができます。CDN からインストールするには、オペレーティングシステムのバージョンとバリエーションに合った正しいリポジトリを使用するように **subscription-manager** を設定します。

CDN リポジトリを有効化するには、以下のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos --enable=reponame
```

CDN リポジトリを無効化するには、以下のコマンドを実行します。

```
# subscription-manager repos --disable=reponame
```

以下の表は、Satellite Server、Capsule Server、および Satellite Maintenance のリポジトリのリストです。

表8.1 Red Hat Satellite Base、Capsule、Maintenance、および Utils for RHEL 8

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite 6.15 for RHEL 8 x86_64 (ISO、RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-6.15-for-rhel-8-x86_64-{isos, rpms, debug-rpms, source-rpms}

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Capsule 6.15 for RHEL 8 x86_64 (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-capsule-6.15-for-rhel-8-x86_64-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Maintenance 6.15 for RHEL 8 x86_64 (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-maintenance-6.15-for-rhel-8-x86_64-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Utils 6.15 for RHEL 8 x86_64 (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-utils-6.15-for-rhel-8-x86_64-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

以下の表は、Red Hat Satellite Client のリポジトリのリストです。

表8.2 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 6

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 6 Server 用 - ELS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-6-server-els-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 6 for System Z 用 - ELS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-6-for-system-z-els-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

表8.3 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 7

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Desktop 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-desktop-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Workstation 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-workstation-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for Scientific Computing 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-hpc-node-satellite-tools-7-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for IBM Power 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-power-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for IBM Power LE 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-power-le-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for System Z 用) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-system-z-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用 - Update Services SAP Solutions) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-e4s-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 for IBM Power LE 用 - Update Services SAP Solutions) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-for-power-le-e4s-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用 - TUS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-tus-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 (RHEL 7 Server 用 - AUS) (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	rhel-7-server-aus-satellite-client-6-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

表8.4 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 8

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 <arch> (RPMS、Debug RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-<arch>-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 IBM z Systems - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-s390x-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 Power、リトルエンディアン - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-ppc64le-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 ARM 64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-aarch64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64 - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 Power、リトルエンディアン - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-ppc64le-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64: Telecommunications Update Service (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-tus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 8 x86_64 - Advanced Mission Critical Update Support (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-8-x86_64-aus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

表8.5 Red Hat Satellite Client for Red Hat Enterprise Linux 9

リポジトリ名	リポジトリラベル
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 <arch> (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-<arch>-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 x86_64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-x86_64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 IBM z Systems - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-s390x-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 Power、リトルエンディアン - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-ppc64le-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 ARM 64 - 延長更新サポート (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-aarch64-eus-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 x86_64 - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-x86_64-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}
Red Hat Satellite Client 6 for RHEL 9 Power、リトルエンディアン - Update Services SAP Solutions (RPMS、デバッグ RPMS、ソース RPMS)	satellite-client-6-for-rhel-9-ppc64le-e4s-{rpms, debug-rpms, source-rpms}

8.4. デプロイメントワークフローと参照製品ドキュメント

Satellite のデプロイメントと必要なデプロイメントワークフローに関するドキュメントは、[概要](#)、[概念](#)、[デプロイメントの考慮事項](#) を参照してください。

8.5. 製品のライフサイクル

Red Hat Network Satellite と Red Hat Satellite のライフサイクルフェーズの概要および本製品のサポート状況については、[Red Hat Satellite の製品ライフサイクル](#) を参照してください。

8.6. コンポーネントのバージョン

Red Hat Satellite は、複数のアップストリームプロジェクトの組み合わせです。含まれるメジャープロジェクトと、Red Hat Satellite の各メジャーおよびマイナーリリースに含まれるプロジェクトのバージョンの詳細は、[Satellite 6 Component Versions](#) を参照してください。

付録A コンポーネント別のチケットリスト

参考のために、Bugzilla および JIRA チケットのリストをこのドキュメントに記載します。リンクをクリックすると、チケットを説明したこのドキュメントのリリースノートにアクセスできます。

コンポーネント	チケット
Ansible - Configuration Management	Bugzilla:2181595
Fact	Bugzilla:1972308
Hammer	Jira:SAT-23753
Installation	Jira:SAT-20206 、 Jira:SAT-21163
Logging	Jira:SAT-20206
Provisioning	Bugzilla:2153548 、 Jira:SAT-18663
Puppet	Bugzilla:2087067
登録	Bugzilla:1994654 、 Bugzilla:2155444 、 Bugzilla:2180568
Remote Execution	Jira:SAT-19794 、 Jira:SAT-20749
SCAP Plugin	Jira:SAT-22421
Settings	Jira:SAT-19793 、 Jira:SAT-23934
Upgrades	Jira:SAT-21163
Users & Roles	Jira:SAT-18126
その他	Jira:SAT-23132 、 Jira:SAT-24730 、 Jira:SAT-22617 、 Jira:SAT-17368 、 Jira:SAT-20753 、 Jira:SAT-20947 、 Jira:SAT-20990 、 Jira:SAT-20393 、 Jira:SAT-20206 、 Jira:SAT-20910 、 Jira:SAT-19793 、 Jira:SAT-24698 、 Jira:SAT-24552 、 Jira:SAT-19794 、 Jira:SAT-20746 、 Jira:SAT-20745 、 Jira:SAT-18663 、 Jira:SAT-18123 、 Jira:SAT-20749 、 Jira:SAT-23753 、 Jira:SAT-24557 、 Jira:SAT-20862 、 Jira:SAT-21137 、 Jira:SAT-23881 、 Jira:SAT-21163 、 Jira:SAT-22241